

# 「本物と語ろう 研究者編」開催



令和元年12月3日放課後、生物講義室にて本校の卒業生で、京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所 京都大学大学院理学研究所修士課程1年の杉山高大氏によるリサーチゼミ「本物と語る研究者編」を開催しました。34名の生徒と教職員が参加しました。

前半は、高校時代の生活や受験について、大学選びや大学での学業やサークル活動について、大学院での研究生生活について、具体的に話してくださいました。



後半は、「生物が多様な色彩をもっているのはなぜか」について、「色彩多型」や「色彩可塑性」の説明を交えて話してくださいました。

研究内容や研究への取組の一端を知ることができました。

研究対象への愛情、熱い思いが伝わってきました。

## 参加生徒の意見から

- ・「色彩多型」という言葉を初めて聞きましたが、なんとなくわかる場所があったので、そこを掘り下げられるように生物の学習を頑張りたいと思いました。ダンゴムシも色が違うものが多いけれど、それも色彩多型というのかと疑問に思ったので、一度調べてみたいと思いました。まだ自分のレベルではついていけないので、いつかこのレベルで話ができるように勉強したいと思いました。
- ・身近な生物にもたくさんの謎がある事が分かった。ただ見て終わるのではなく、なぜ？と一歩踏み込んで考えることが大切だと感じた。
- ・僕は研究者を目指しているのですが、役に立たないと思ってしまうことが多い。これからは、役に立たないと切り捨てるのではなく、自分が役に立たせるという気持ちをもちたいと思いました。